

研究ノート

日本語の作文教育の授業における評価用フローチャートの活用

Using Evaluation Flowcharts in Japanese Writing Education Classes

坪根由香里*
TSUBONE Yukari

This study aimed to investigate learners' perceptions about a flowchart developed for evaluating Japanese narrative writing by using the flowchart in a Japanese language teacher training class. In the first session, students were asked to write an essay (600-800 characters). In the second session, after explaining how to use the flowchart, each student was asked to evaluate another student's essay using the three segments of the flowchart: [Content], [Organization], and [Japanese]. A questionnaire survey conducted at the end of the session revealed that many students found the evaluation criteria clear and easy to use when applying the flowchart. Furthermore, when students received the evaluations using the flowcharts from other students, they understood the problems within their essays and could identify areas for improvement.

キーワード：ナラティブ作文 (narrative writing)、フローチャート (flowchart)、評価 (evaluation)

1. はじめに：研究の背景

これまで第二言語としての日本語の作文評価研究では論証型が中心であり、田中他 (2018) 等では論証型作文評価のフローチャート (以下 FC) が開発されている。一方、筆者は作文の中でも「ナラティブ¹」に焦点を当て、日本語のナラティブ作文の good writing や評価について研究を行ってきた。初級学習者が書く「私の一日」「私の家族」のような作文、大学での「実習報告レポート」、就職活動の「エントリーシート」等、ナラティブ作文は様々な場面で書く機会があり、日本語教育の現場で教える必要性がある。

坪根他 (2021) は、日本語のナラティブ作文の評価基準を開発し、マルチプルトレイト評価の 3 トレイト【内容】【構成】【日本語】に属する 15 の評価項目およびループリックを提示している²。その後、日本および海外 (タイ・ベトナム・インドネシア) の大学で日本語を教える教師を対象とした作文評価の研究から、日本語教師が作文を評価する際に重視する項目が検討されている (坪根他 2022、数野他 2022、トンプソン他 2022)。これらの研究から明らかになった重視度とナラティブ作文用の評価項目・ループリックから、マルチプルトレイト別の【内容】【構成】【日本語】と、ホリスティックの 4 つのナラティブ作文用 FC を開発した³。FC とは、作文を評価する際の各要素の優先順位 (階層性) を決め、段階的に評価していく方法のことである。あるポイントに関して評価をし、そのポイントができていたら、次のポイントの評価することを繰り返して、FC の上から下へと進んでいき、最終的な評価が出る。FC の開発過程では、大学で文章指導をしている日本語教師 6 名にチェックを依頼し、また、筆者の研究グループメンバーが実際にナラティブ作文を評価するなどして、改良を加えた。

FC は作文の評価の際に使うことで評価の方向性を一致させることができるため、プレイスメントテストなど大量の作文を効率よく評価できるのではないかと考える。また、同じコースを複数の教師で担当するときの基準の目安にできる可能性もある。一方で、教育場面で使用すれば、学習者にどの部分を改善すれば、よりよい作文が書けるか指導しやすくなり、自己評価やピア評価で使用することで、学習者自身の気付きにもつながる可能性

¹ 「ナラティブ」とは、「ある一連の出来事を時間軸に沿って展開する文章」 (田中・阿部 2014 : 38) だが、ナラティブ作文では、出来事を順序立てて説明することに加え、出来事に対する心情・評価を描写することも求められると考えている。

² 研究を進める段階で評価項目およびループリックを一部修正し、修正後のものはウェブサイト to 公開されている。

(「Narrative Writing 日本語のナラティブ作文評価のための支援ツール」 <https://narrativewriting20.wixsite.com/home>)

³ 稿末資料にマルチプルトレイト別の【内容】の FC を掲載している。その他の FC は上記ウェブサイト参照。

があると考えた。そこで、本研究では、日本語教員養成関連の授業の履修者を対象に FC を用いた作文評価の実践を行い、学習者が FC を使った評価についてどのように感じるかをアンケート調査から明らかにする。

2. 先行研究

坪根他（2022）、数野他（2022）、トンプソン他（2022）では、日本語教師がナラティブ作文を評価する際に重視する項目について明らかにしている。坪根他（2022）は、日本の大学で教える日本語母語話者教師（以下、NT）がナラティブ作文を評価する際、評価者によって重視する項目が異なるのかを調べ、NT がナラティブ作文を評価する際、[メインポイントの明確さ][興味深さ][一貫性][過不足ない描写][順序立て][正確さ]が上位作文で順位を決定する際の重要な要素であり、評価観点の違いから 4 つの評価者グループに分かれたとしている。また、数野他（2022）は、海外の日本語学習者が書いた「忘れられない出来事」の NT による作文評価について、上位・中上位・中下位・下位作文の特徴を分析し、[課題達成][メインポイントの明確さ]、主題と出来事の間の[一貫性]ができていることが上位・中上位の作文で前提となること、および、上位作文と評価されるには、出来事とそれに対する心情・評価の具体的記述、日本語の正確さが求められることを示している。東南アジアの大学で日本語を教える NT と日本語非母語話者教師（以下、NNT）を対象にナラティブ作文評価の際に重視する項目を調べたトンプソン他（2022）では、NT・NNT とともに【内容】の[課題達成][メインポイントの明確さ][興味深さ][心情・評価][一貫性]で平均値が高く、NNT のみ【内容】の[効果的な導入とまとめ]、【構成】の[順序立て][結束性]でも平均値が高かったという。また、上位作文の決め手では、NT・NNT とともに[興味深さ]と[正確さ]を good writing の決め手としていたとしている。以上の研究から、ナラティブ作文評価で重視される項目が明らかになっている。

3. 授業実践の概要

(1) 実践で使った FC について

上記先行研究を基に、評価の際に日本語教師が重視している項目を中心にナラティブ作文用の FC を開発した。【内容】では[課題達成][メインポイントの明確さ][興味深さ][出来事の描写][心情・評価][一貫性]を評価ポイントとして取り入れ、先行研究において下位作文でできていないとされた[課題達成][メインポイントの明確さ][一貫性]は、FC では比較的前の段階でチェックするようにした。【構成】では[順序立て]、【日本語】では[正確さ]が重視されていたため、これらの項目を中心に FC を作成している。このようにして開発された FC を用いて実践を行った。

(2) 授業実践について

2023 年 6 月と 2023 年 12 月の日本語教員養成関連の 2 つの授業（以下、授業①、授業②）で FC を使って作文評価に関する授業を行った。授業①は日本人 3 名、留学生 10 名、授業②は留学生 6 名が参加した。

授業は 2 コマを使って実施した。1 コマ目には以下の課題文により、「困難・大変だったこと」または「忘れられない出来事」のどちらかのテーマで作文（600 字～800 字）を書いてもらった。

1) 「困難／大変だったこと」

あなたは日本の大学のサマープログラムに参加したいと思っています。日本に送る応募書類の 1 つに作文があります。タイトルは「困難／大変だったこと」です。これまでの経験の中で困難／大変だったことを説明し、それに対してあなたがどう対処したかを 600 字～800 字で書いてください。

2) 「忘れられない出来事」

日本の協定校の新聞で、「忘れられない出来事」という特集号を組むことになり、そこに記事を書くように頼まれました。あなたの「忘れられない出来事」についてのエピソードを紹介する文章を 600 字～800 字で書いて、送ってください。

2 コマ目は、まず評価用 FC について説明し、評価の仕方を確認した。なお、今回は、2 種類の評価を同時に使用することの混乱を避けるため、ホリスティック評価は行わず、【内容】【構成】【日本語】の 3 つのマルチプルトレイト評価を行った。次に、自分以外のクラスメートの作文を配布し、評価用 FC を使って評価してもらった。その際は、評価点を出すのみで、コメントを書かせてはいない。それを回収して作文を書いた各学生に返却した。各自が自分の作文の評価点を見て FC で確認し、【内容】【構成】【日本語】それぞれについて改善点を考えるという流れで行った。つまり、学生は評価をする側、評価を受ける側の両方を体験するという実践を行った。その後、アンケート調査に回答してもらった。

なお、調査に関しては、作文執筆以降の評価およびアンケート調査については匿名で実施しており、個人情報の保護には最大限の注意を払うなど倫理的な配慮をすることを伝えている。

4. アンケート調査の結果と考察

(1) FC を使って評価をしたことについて

アンケート調査では、1) FC を使った評価をしてどう思ったか（1. 使いにくかった～5. 使いやすかった）、2) 【内容】【構成】【日本語】の FC について、各項目の評価ポイントはわかりやすかったか（1. わかりにくかった～5. わかりやすかった）を 5 件法で尋ね、理由を記述してもらった。その上で、3) FC を使った評価をした感想を尋ねた。FC の使いやすさ、各項目の評価ポイントのわかりやすさについての結果は表-1 の通りである。

表-1 FC 評価に関する質問の結果の平均値および標準偏差（SD）

質問項目	1) FC の使いやすさ	2) 各項目の評価ポイントのわかりやすさ 【内容】	2) 各項目の評価ポイントのわかりやすさ 【構成】	2) 各項目の評価ポイントのわかりやすさ 【日本語】
平均値（SD）	4.17 (0.50)	4.17 (0.60)	3.67 (1.11)	4.56 (0.50)

FC の使いやすさの平均値は 4.17 で、比較的使いやすいという結果だった。各項目の評価ポイントがわかりやすかったかどうかについての平均値は、【内容】が 4.17、【構成】が 3.67、【日本語】が 4.56 で、【日本語】が最も高く、【構成】は全体の中では低い値となった。

表-2 は 1) の質問で回答された理由をプラスコメント（+）、マイナスコメント（-）に分けてまとめたものである（以下の表も同様）。

表-2 FC の使いやすさに関する理由

+/-	コメント内容	人数
+	評価の基準がわかりやすい/使いやすい	9
	内容、構成、日本語に分けた評価がわかった/いい	4
	FC があると一人でも評価できる	1
	評価の根拠になる	1
	各ポイントが詳細で作文の達成度の参考にしやすい	1
-	一旦評価点が出た後の項目ができていない可能性がある	1

ある（以下の表も同様）。

「使いやすかった」理由としては、「評価の基準がわかりやすい/使いやすい」が 9 名、「内容、構成、日本語に分けた評価がわかった/いい」というコメントが 4 名から得られ、評価の基準がわかりやすいと評価されていた。また、「FC があると一人でも評価できる」「評価の

根拠になる」「各ポイントが詳細で作文の達成度の参考にしやすい」のように、客観的な評価方法であるというプラスコメントもあった。一方で、「一旦評価点が出た後の項目ができていない可能性がある」という指摘もあった。

表-3 は 2) 「各項目の評価ポイントはわかりやすかったか」で回答された理由をまとめたものである。まず内容は、「具体的に/詳しく説明している（5 名）」「評価基準が理解できた（3 名）」「評価のポイントは十分で評価しや

表-3 各項目の評価ポイントのわかりやすさに関する理由

トレイト	+/-	コメント	人数
内容 (4.17)	+	具体的に/詳しく説明している	5
		評価基準が理解できた	3
		評価のポイントは十分で評価しやすい	2
		難しい単語の説明がある	2
		作文の内容がいいか悪いかすぐわかる	1
	-	一旦評価点が出た後の項目ができている可能性がある	1
		あいまいなところがあった	1
		課題からずれていたなら 0 点になる	1
		内容は人それぞれ	1
構成 (3.67)	+	評価が詳しい	3
		各項目に説明があって理解しやすい	2
		あいまいなポイントが少なく使いやすい	2
		評価の順序が理解しやすい	1
		間違いやすいところがわかる	1
	-	終結部がない場合に点数が低すぎる	1
日本語 (4.56)	+	評価ポイントがわかりやすい	5
		詳しい	4
		基本的な日本語と中級以上の日本語を区別していて評価しやすい	2
		用語の説明があるので非母語話者にも理解しやすい	1
		正確に基礎的な日本語を使うことは上級日本語より大事	1
	-	(なし)	

表-4 FC を使った評価をした感想

+/-	コメント	人数
+	作文の評価基準・評価方法を知った	5
	評価しやすい	4
	客観的に評価できた	2
	基礎がない人、初めての人でも使いやすい	2
	作文評価をするのは初めてで新鮮だった	1
	具体的に書いてあるところはいい	1
	自分の作文のいい点悪い点を知った	1
-	一旦評価点が出た後の項目ができている可能性がある	2
	わかりにくいところもある	1

すい（2 名）」「難しい単語の説明がある（2 名）」などのプラスコメントのほか、「あいまいなところがあった」や「課題からずれていたなら 0 点になる」といったマイナスコメントも挙げられた。

構成については、「評価が詳しい（3 名）」「各項目に説明があって理解しやすい（2 名）」「あいまいなポイントが少なく使いやすい（2 名）」などのプラスコメントがあったが、

平均値は 3.67 と全体の中では高くなく、「終結部がない場合に点数が低すぎる」「評価のポイントが同じものがある」「順番がこれでいいのか悩む」というマイナスコメントがあり、優先順位が自身の考えと違っていた人もいたようである。

一方、日本語は 4.56 と高く、マイナスコメントはなかった。「評価ポイントがわかりやすい（5 名）」「基本的な日本語と中級以上の日本語を区別していて評価しやすい（4 名）」と判断された。

FC を使った評価をした感想（表-4）としては、「作文の評価基準・評価方法を知った（5 名）」「評価しやすい（4 名）」「客観的に評価できた（2 名）」「基礎がない人、初めての人でも使いやすい（2 名）」などのプラスコメントのほか、先述した、一旦評価点が出た後の項目ができていない可能性についても改めて出された。

(2) FC を使った評価を受けたことについて

表-5 FC を使った評価のわかりやすさに関する理由

＋/－	コメント	人数
＋	自分の作文の問題点・改善点がわかった	6
	自分の作文は自分では間違いに気づかない	1
	自分の作文の達成度がわかった	1
	自分の考えと同じだった	1
	作文の評価方法を知った	1
－	具体的な間違いの指摘がない	2
	どう改善したらいいかわからない	1

表-6 FC を使った評価は作文改善に役に立つか

＋/－	コメント	人数
＋	自分の作文の問題点・改善点がわかった	7
	直しやすい	1
	評価基準を知ることができた	1
	構成の FC は役立つ	1
－	理由を教えてくれない	1
	どう改善したらいいかわからない	1
	FC より他人の作文を見ることは役立った	1

表-7 FC を使った評価をもらった感想

＋/－	コメント	人数
＋	問題点がわかって改善しやすい	7
	評価点は自分の考えと同じだった	2
	公平で客観的に評価できる	1
	一目で評価できる	1
	最初はうまくできなくてもできるようになる	1
－	型通りの作文になる/作文の形の多様性も大切	2
	直してくれないので付けられた点数の理由がわからない	1

次に、4) FC を使った評価をもらってどう思ったか（1. わかりにくかった～5. わかりやすかった）、5) 自分の作文を改善するのに役に立つと思うか（1. 役に立たない～5. 役に立つ）を 5 件法で尋ね、理由を記述してもらった。最後に、6) FC を使った評価をもらった感想を尋ねた。

4) FC を使った評価をもらった側としてわかりやすかったかどうかについては、平均値は 3.67 ($SD: 1.25$) であった。理由を表-5 にまとめる。FC を使った評価がわかりやすかった理由は、「自分の作文の問題点・改善点がわかった(6 名)」という回答が多く、「自分では間違いに気づかない」「自分の作文の達成度がわかった」なども見られ、FC によって自分の作文で達成できている点、問題点が明示的にわかる点が評価された。一方、「具体的な間違いの指摘」がなく、「どう改善したらいいかわからない」というマイナスコメントもあった。

5) 「自分の作文を改善するのに役に立つと思うか」という質問の平均値は 4.11 ($SD: 1.24$) であった。表-6 はその理由である。これによると、「自分の作文の問題点・改善点がわかった(7 名)」から役立つと捉えられている一方で、先ほどと同様、どう改善したらいいかわからないというコメントもあった。

6) FC を使った評価をもらった感想（表-7）は、「問題点がわかって改善しやすい(7 名)」という回答が多く、各段

階の項目の説明がフィードバックになり、それが改善につながると捉えられている。一方で、FC を使うことで「型通りの作文になる」が「作文の形の多様性も大切」であるという意見も見られた。

(3) 考察

FC を使った評価をする側としては、全体的には、【内容】【構成】【日本語】別に詳しい説明があって、評価の基準がわかりやすい/使いやすいという意見が多かった。FC は評価の観点ごとに説明を読みながら 1 つずつ見ていくため、評価に慣れていない人にとってもわかりやすく、評価がしやすいと捉えられていることがわかる。一方で、一旦評価点が出た後の項目ができていない可能性がある点が指摘された。これは FC が各要素の優先順位（階層性）を決め、段階的に評価していき、一旦評価点が出たらその後の項目ができていても点数が上がるわけではないためである。しかし、FC は固定したものでなく、授業を行う教師が柔軟に優先順位を設定することができると考えている。学習者に当該授業の中で注意すべきことを教師が伝え、その授業目標に従って FC を作成・提示し、評価を行うことで、上記の学習者の不満は解消できるのではないかと。

FC を使った評価を受ける側としては、自分の作文の問題点・改善点・達成度がわかったという意見が多かった。自分の作文がどの段階までは問題がなく、どの段階に問題があったのかが明白なことにより、次に作文を書く時の意識づけに繋がるのが期待できる。ここからは、FC は作文の授業で行う自己評価やピア評価にも効果的であると言えるであろう。一方で、どう改善したらいいかまではわからない、型通りの作文になるといったコメントもあった。FC には各項目の説明があるものの、実際に作文のどの点に問題があるのかはわからない。FC はあくまでも評価であるため、教育場面では教師からの具体的コメントとの併用が望ましい。

5. おわりに

本稿では、ナラティブ作文の評価用 FC を教育場面で使用し、学習者が FC を使った評価についてどのように感じるかを明らかにした。結果からは、FC は作文の授業で行う自己評価やピア評価にも効果的だということが示唆された。さらに、日本語クラスの作文授業だけでなく、今回の実践のように、日本語教員養成課程の中で「書く授業」を扱う際に、作文の評価ポイントを意識させることも可能であろう。

今回はアンケート調査で実践についての意識を探したが、例えば、一旦評価点が出た後の項目ができていない可能性について、具体的に評価点が出た後のどの項目を考慮に入れたと思ったのかまでは尋ねていない。また、実際にどのような作文において FC ではどのような評価がなされ、その評価を受け取った側がその評価についてどのように受け取るかといった過程の中での実践例を示すことも必要であろう。今後は、実際に日本語の授業の中で FC を活用した授業を行って、さらに FC の教育的活用について検証する必要がある。

【謝辞】

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(B)19H01274「日本語ライティングにおけるナラティブの Good Writing 探究と評価法の開発」（代表者：坪根由香里）の取り組みの一部である。

【引用・参考文献】

- 数野恵理・影山陽子・トンプソン美恵子・坪根由香里（2022）「日本語母語話者教師が考えるナラティブ作文の Good Writing—評価の際に重視された項目より—」『日本語・日本語教育』5、pp.1-22
- 田中真理・阿部新（2014）『Good writing へのパスポート—読み手と構成を考えた日本語ライティング』くろしお出版
- 田中真理・坪根由香里・久保田佐由利（2018）「トレイト別フローチャートを用いたライティング評価：カナダ・アメリカにおける応用」New writing assessment flowchart system: Application in Canada and the United States, CAJLE 2018 Proceedings, pp.284-293.
- 坪根由香里・トンプソン美恵子・影山陽子・数野恵理（2022）「日本語母語話者教師による日本語ナラティブ作文の評価観点の違い—クラスター分析の結果から—」『社会言語科学』25（1）、pp.214-229
- トンプソン美恵子・影山陽子・坪根由香里・数野恵理（2022）「日本語母語話者教師・非母語話者教師がナラティブ作文評価で重視する項目—評価項目の重視度比較と順位決め自由記述の分析—」『日本語教育』183、pp.1-17

資料

【マルチプルトレイト^{ひょうか}評価（Multiple-trait scoring）】
＜内容＞

「内容」は、出来事・経験の描写、心情・評価の記述、課題の達成、一貫性、メインポイントの明確さ、導入とまとめ、興味深さなどを評価する。

